

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月29日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23810019

研究課題名（和文） グローバル化時代におけるイスラーム金融の動態とその多様性についての実証研究

研究課題名（英文） An Empirical Study on the Regional Diversity of Islamic Finance in the Global Era

研究代表者

長岡 慎介 (NAGAOKA SHINSUKE)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：20611198

研究成果の概要（和文）：

本研究では、イスラーム金融の実践への取り組みが新たに活発となっている新興市場（ヨルダン、インドネシア、英国）に着目し、それらの国におけるイスラーム金融の理論と実践の多様性のあり方についてフィールドワークにもとづいた調査を行った。その結果、本研究が対象とした上記3カ国では、イスラーム金融の世界的拠点である中東湾岸地域およびマレーシアの実態を意識しながらも、それぞれが異なる形でそのような世界的拠点との相互関係を結んでいることが解明された。

研究成果の概要（英文）：

This study focuses on three representative emerging markets of Islamic finance (Jordan, Indonesia and UK), and aims to clarify the regional diversity of Islamic finance practice in the global era. The study shows that both theory and practice of Islamic finance vary between these countries. The main contributing factor of this diversity is the difference regarding the relationship with the global hubs of Islamic finance (the Gulf countries and Malaysia).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2012年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：イスラーム金融、イスラーム経済論、イスラーム法、地域研究、地域間比較

1. 研究開始当初の背景

「利子の取得の禁止」「不確実性の大きい取引の禁止」といったイスラームの経済理念に適った金融システムを現代世界に再構築しようとする動きは、20世紀半ばからイスラーム世界で活発化した。そして、数多くの試行錯誤の末、1970年代の中東湾岸地域における商業イスラーム銀行の設立によって、その

動きは一気に具体化した。このようなイスラームの経済理念にもとづいて金融サービスの提供を行う金融活動は総じてイスラーム金融と呼ばれる。

イスラーム金融は、2000年以降、世界的ネットワークを形成しながら、世界各地で急速に普及・成長しており、いわばグローバル化の時代を迎えている。本研究は、そのような

グローバル化時代のイスラーム金融の実践、およびそれを支える理論に注目し、各地域で多様な形で展開されているイスラーム金融の理論や実践の特徴を調査・比較することで、グローバル化時代のイスラーム金融の多様性のあり方を包括的・構造的に解明することをめざす。

地域間比較の観点からイスラーム金融の多様性のあり方を論じた従来の研究においては、次のようなことが通説として語られてきた。すなわち、イスラーム金融の理論は、中東湾岸地域と東南アジアで大きく異なっており、前者の中東湾岸地域では、イスラームの教義の厳格な解釈に依拠した理論をもとに実践が行われている一方、後者の東南アジアでは、イスラームの経済理念よりも金融の現場の要請をより重視した現実志向の理論をもとに実践が行われている、というものである。イスラーム金融の多様性をこのような「中東湾岸地域と東南アジア」という2つの地域間の差異という図式で捉える見方は、きわめて明快でわかりやすく、多くの研究者や実務家に受け入れられた。実際に、1990年代のイスラーム金融の多様性は、この通説によって理解できる部分が多かった。

イスラーム金融の多様性をこのような2つの地域間の差異という図式で捉えることの問題点は2つある。1つは、この見方が、当初は1990年代のイスラーム金融の特徴として論じられたにもかかわらず、それがステレオタイプ化し、2000年以降のイスラーム金融の実態に対しても、十分な検証なしに当てはめてしまっているという点である。この点について、本研究代表者は、これまでの研究において、上記の通説が2000年以降のイスラーム金融に対しては、もはや当てはまらなくなっていることを検証した。具体的には、2000年以降に開発されたタワールクという新しい金融商品を取り上げ、中東湾岸地域と東南アジア（特にマレーシア）の両地域における当該の理論と実践の実態を調査・比較した。その結果、1990年代とは異なり、この金融商品の理論や現場での導入状況の分布は、2つの地域間の差異として明確に描けないことが判明した。この検証から、グローバル化時代のイスラーム金融の多様性は、中東湾岸地域と東南アジアという2つの地域間の相違という図式では、もはや捉えることができないことが明らかになった。

イスラーム金融の多様性を2つの地域間の差異という図式で捉えることのもう1つの問題点は、参照する地域がきわめて限られており、それ以外の地域におけるイスラーム金融の理論や実践が捨象されている点である。2000年以降、中東湾岸地域とマレーシアに加えて、湾岸以外の中東地域、ヨーロッパ、およびマレーシア以外の東南アジアでもイ

スラーム金融が急速に台頭してきており、それらの地域での理論や実践の影響力が大きくなりつつある。したがって、グローバル化時代のイスラーム金融の多様性のあり方を包括的・構造的に解明するためには、このような新たに台頭してきた地域におけるイスラーム金融の理論や実践のあり方や、従来からの展開地域（中東湾岸、マレーシア）とのつながり・相互関係を分析することがきわめて重要になってるといえる。

2. 研究の目的

以上の研究の学術的背景を踏まえて、本研究では、上記で触れたイスラーム金融の多様性を2つの地域間の差異という図式で捉えることの2つめの問題点を念頭に置き、グローバル化時代のイスラーム金融の多様性のあり方を包括的・構造的に解明する。本研究代表者による中東湾岸地域およびマレーシアにおけるこれまでの集中的な検討を踏まえて、本研究では、2000年以降、イスラーム金融が急速に浸透し始めている地域（湾岸以外の中東地域、ヨーロッパ、およびマレーシア以外の東南アジア）を主な検討対象として取り上げる。とりわけ、イスラーム金融の成長が著しい3カ国（ヨルダン、インドネシア、イギリス）を各地域の代表国として着目し、集中的なフィールドワークを実施する。

具体的な調査項目としては、本研究代表者による中東湾岸地域とマレーシアでの調査内容との整合性をとるために、対象国のイスラーム銀行でどのような金融商品が使用されているのかを集中的に調査する。また、そのような金融商品の使用を正当化する理論的基盤がどのようなものであるのかについて、当地で議論されているイスラーム金融の理論の動向についても調査を行う。その上で、本研究での調査結果、および本研究代表者のこれまでに行ってきた中東湾岸地域とマレーシアに関する研究成果を総合して、グローバル化時代のイスラーム金融の理論と実践の多様性のあり方を包括的に解明する。

さらに、そのような多様性が生じる要因として、イスラーム金融をめぐる地域間のネットワークに着目し、従来からイスラーム金融が発達していた地域（中東湾岸地域・マレーシア）における理論や実践が、新たに台頭してきた地域にどのような影響をもたらしたのかについても検討を行う。イスラーム金融の理論や実践には、イスラームの教義の現代的解釈を行うイスラーム法学者が大きな影響力を持っている。したがって、本研究では、著名なイスラーム法学者たちのクロス・ボーダーなイスラーム金融への関与のあり方にとりわけ着目し、グローバル化時代のイスラーム金融の構造的特徴の一端を解明することにする。

3. 研究の方法

グローバル化時代のイスラーム金融の理論と実践の多様性のあり方を包括的・構造的に解明するために、本研究では2年間にわたって3カ国（ヨルダン、インドネシア、イギリス）でのフィールドワークを実施する。その際に、下記の点について具体的な調査を実施する。

- ①各イスラーム銀行において提供している金融商品のラインナップの調査
- ②金融商品の提供を可能にしているイスラーム学や経済学の理論的基盤についての調査（文献収集およびイスラーム法学者への聞き取り調査）
- ③当地のイスラーム金融の理論や実践に影響力のあるイスラーム法学者のネットワークについての調査

4. 研究成果

◆平成 23 年度

本年度は、下記の2点について研究を行った。

(1) イスラーム金融の最新動向の調査と調査対象国のイスラーム金融の国際的プレゼンスについてのデータ収集

本研究が対象とする3カ国（ヨルダン、インドネシア、イギリス）のイスラーム金融の規模と国際的プレゼンスを理解するために、英語・アラビア語文献の収集を精力的に行った。また、2011年12月には、世界各国のイスラーム金融統計・データの収集を精力的に行っているイスラーム金融機関一般評議会（通称CIBAFI：本部、パハレーンのマナーマ）に赴き、研究に必要な統計・データを収集した。また、ハーバード大学における国際学会（ハーバード・イスラーム金融フォーラム）に出席し、イスラーム金融の最新動向に関する情報収集を行った。これらの収集したデータ・情報・文献の解析を踏まえて、イスラーム金融の理論と実践の現状を歴史的視野からの検討を行った。その成果については、2011年12月にカタールで開催された第8回イスラーム経済学国際学会、2012年2月に京都大学で開催された国際ワークショップで発表を行うとともに、国内学術誌『アジア・アフリカ地域研究』（11巻2号）に英語論文として公表した。

(2) ヨルダン、トルコにおけるフィールドワーク

本研究が調査対象としている3カ国のうち、本年度はヨルダンを訪れ、フィールドワークを行った。フィールドワークでは、ヨルダンの主要イスラーム銀行2行および首都アンマン市内の専門書店を訪れ、資料調査、聞き取り調査を行った。調査からは、ヨルダンのイスラーム金融は、実践（商品のラインナップ、

資金）および理論（イスラーム法解釈、法学者ネットワーク）の双方において、イスラーム金融のハブである中東湾岸地域の影響を大きく受けていることが判明した。その中で興味深い知見は、同国のイスラーム金融の実践と理論が、ヨルダンの需要に応じてカスタマイズされているのではなく、中東湾岸地域が推し進めているイスラーム金融の標準化志向に（同地域以上に）沿った形で展開されていることが明らかになった。

また、別資金で渡航する機会を得たトルコにおいても、ヨルダンと同じように近年イスラーム金融が急成長していることから、急遽調査対象国に加えることにし、同様の調査を実施した。同国での調査では、国内の主要イスラーム銀行での調査を行うとともに、イスラーム金融に関するトルコ語文献・資料が膨大に存在していることが判明したため、これらの文献の収集を精力的に行った。以上、2カ国のフィールドワークおよび分析の成果については、2012年1月に開催された国際セミナーにて成果構想を発表し、具体的な成果を学術誌『イスラーム世界研究』に投稿した（2013年度に刊行予定）。

◆平成 24 年度

本年度は、下記の2点について研究を行った。

(1) イギリス、インドネシアにおけるフィールドワーク

本研究が調査対象としている3カ国のうち、本年度はインドネシア、イギリスを訪れ、フィールドワークを行った。そこでは、両国のイスラーム金融監督官庁および現地の複数のイスラーム銀行での聞き取り調査、および現地の大学図書館・書店での資料収集を行った。調査からは、イギリスのイスラーム金融は、理論（イスラーム法解釈、法学者ネットワーク）およびの実践（商品のラインナップ）双方において、欧米の従来型金融機関の存在感が大きく、それとの競争力の向上を最優先課題として、新しい商品開発に必要な理論的発展および法解釈の革新が行われていることが判明した。一方、インドネシアのイスラーム金融については、隣国でかつイスラーム金融の世界的拠点の1つであるマレーシアの影響力を受けながらも、理論および実践の両面において独自の商品開発や法解釈の実践を行おうとする取り組みが存在することが判明した。

(2) 研究のまとめと成果公表

本年度および昨年度のフィールドワークを踏まえて、新たに取り組みが活発になっている新興地域におけるイスラーム金融の理論と実践の多様性のあり方について研究成果にまとめる作業に着手した。そこでは、本研究が対象とした3カ国では、イスラーム金

融の世界的拠点である中東湾岸地域およびマレーシアの実態を意識しながらも、それぞれ異なる形でそのような世界的拠点との相互関係を結んでいることが解明された。このような結論は、イスラーム金融の理論と実践が世界的に標準化・画一化していく流れにあるとする昨今の研究潮流に対して、地道な現地調査から一石を投じるものであるといえる。以上の成果については、2013年10月に京都大学で開催される国際ワークショップで報告し、その後、英語論文の形で公表する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① Shinsuke NAGAOKA "Critical Overview of the History of Islamic Economics: Formation, Transformation, and New Horizons." *Asian and African Area Studies* 11(2), pp. 114-136, 2012. (査読有り)
- ② Shinsuke NAGAOKA "Islamic Finance as a Model of the Sustainable Financial System: Lessons from Financial Activities in the Pre-modern Islamic World." *World Financial Review*, May-June, pp. 42-45, 2011. (査読有り)

[学会発表] (計14件)

- ① Shinsuke NAGAOKA "Islamic Finance and Japan: Recent Developments." Presented at the Joint International Seminar, Islam in Asia: Engaging the Community, 口頭発表(英語)、2013年3月19日、於：京都大学。
- ② Shinsuke NAGAOKA "New Horizon of Islamic Economics in Second Decade of the 21st Century: Towards a New Universal Economic System." Presented at the Bank Indonesia Knowledge Sharing Session on Islamic Banking Series #2, 口頭発表(英語)、2013年3月8日、於：インドネシア、インドネシア中央銀行。
- ③ Shinsuke NAGAOKA "Resuscitation or Novel System? Emergence of the Integrated Islamic Economic System in the Twenty-First Century." Presented at the 4th International Symposium on Islam, Civilization & Science, 口頭発表(英語)、2013年2月20日、於：マレーシア、マレーシア国民大学。
- ④ Shinsuke NAGAOKA "Islamic Finance in the Second Decade of the 21st Century: Challenge and Struggle between Aspiration and Reality." Presented at the Workshop on Mutual Influences between Economic Development and 'Moderate Islamism' in the

Non-Oil-Producing Middle Eastern Countries, 口頭発表(英語)、2013年2月15日(金)、於：東京大学。

- ⑤ 長岡慎介 「サイバー空間が創り出す 新たなグローバル/ローカル経済のかたち—現代に再興するイスラーム経済ネットワークからの探究」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(AA研) 基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探求」2012年度公開シンポジウム「境界/Borders in Africa —メディア・民族・宗教の視点から」、口頭発表、2012年12月15日、於：東京外国語大学。
- ⑥ 長岡慎介 「イスラーム金融の実践を支える知的インフラ—その系譜とグローバル化時代における新展開」NIHUプログラム・イスラーム地域研究京都大学拠点3班合同研究会「イスラーム世界の国際組織とグローバルネットワーク II」、口頭発表、2012年11月9日、於：京都大学。
- ⑦ Shinsuke NAGAOKA "Global History and Islamic Finance: Towards a Critical Analysis of Modern Capitalism." Presented at the 2nd Kazan International Scientific Forum: Islam in a Multicultural World, 口頭発表(英語)、2012年10月30日、於：ロシア連邦タタールスタン共和国、カザン連邦大学。
- ⑧ Shinsuke NAGAOKA "Financial Crisis and its Macroeconomic Impact to the Islamic Economic System: A Theoretical Inquiry." Presented at the 6th International Conference of the School of Economics and Business: Beyond the Economics Crisis: Lessons Learned and Challenges Ahead, 口頭発表(英語)、2012年10月12日、於：ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、サラエヴォ大学。
- ⑨ Shinsuke NAGAOKA "Dynamics of Islamic Economics after the Boom of Islamic Finance: A Vision for Neo-Capitalism or New Universal System?" Presented at the 1st KIAS-EKONIS International Workshop in Islamic Economics and Finance: Revitalization and Organic Integration of Islamic Economic Institutions, 口頭発表(英語)、2012年9月25日、於：京都大学。
- ⑩ Shinsuke NAGAOKA "Reconsidering the Economic Implication of Gharar in Islamic Derivatives." Presented at the 6th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance (New Horizons in Islamic Economics), Islamic Finance & Economy and Finance in the Muslim World: Theories and Realities, 口頭発表(英語)、2012年7月18日、於：英国、ダラム大学。
- ⑪ Shinsuke NAGAOKA "Islamic Economics in the Second Decade of the 21st Century: Revival of Mudaraba Consensus or New Horizons?."

Presented at the 5th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economic and Finance: New Horizons in Islamic Economics, Critical Perspectives on the Financial and Social Performance of Islamic Finance、口頭発表（英語）、2012年2月12日、於：京都大学。

⑫ Shinsuke NAGAOKA "Mediterranean Perspectives of Islamic Finance: Historical and Practical Inquiries." Presented at the Joint Seminar of Institute for Mediterranean Studies, Pusan University of Foreign Studies and Center for Islamic Area Studies and Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University: Unity and Diversity of Mediterranean World、口頭発表（英語）、2012年1月31日、於：京都大学。

⑬ Shinsuke NAGAOKA "Islamic Finance for Sustainable Development: Its Historical Background and Potentialities in the Modern World." Presented at the 8th International Conference on Islamic Economics and Finance、口頭発表（英語）、2011年12月21日、於：カタル、ドーハ、カタル国立会議場。

⑭ 長岡慎介「誰が現代イスラーム経済を作っているのか—金融商品の開発現場からみたそのメカニズムと歴史的意義」地域研究コンソーシアム・次世代ワークショップ、口頭発表、2011年11月6日、於：大阪大学。

[図書] (計2件)

① 長岡慎介「中東湾岸諸国における銀行業の国際展開の歴史と現在」土屋一樹編『中東アラブ企業の海外進出』岩波書店（アジア経済研究所叢書9）、79-116頁、2013年。

② Shinsuke NAGAOKA "Islamic Finance at the Two-Edged Blade? Conflict and Coordination between Sharia Legitimacy and Economic Feasibility." In Finance islamique: regard(s) sur une finance alternative. Mazars: Blida (Algeria), pp. 268-273, 2011.

[その他]

① 長岡慎介「イスラム金融のグローバル化と新展開（学者が斬る）」『週刊エコノミスト』2011年9月6日号、2011年。

② 長岡慎介「書評：両角吉晃『イスラーム法における信用と「利息」禁止』」『法制史研究』61、274-279頁、2011年。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長岡 慎介 (NAGAOKA SHINSUKE)
京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授
研究者番号：20611198